

各交通モードの年度別輸送実績

九州運輸局
令和5年9月27日

運輸と観光で九州の元気を創ります

<お問い合わせ先>
九州運輸局交通政策部交通企画課
虎本、室原、榑
電話：092-472-2315
国土交通省九州運輸局HP
<https://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/>



九州運輸局

九州運輸局管内の輸送実績の動向（令和4年度）

- 令和4年度の輸送実績は、コロナ禍前の水準には及ばないものの、令和3年度に引き続き回復傾向となった。令和4年度は厳しい移動制限がなかったこと、10月以降の全国旅行支援の開始や水際対策の緩和などが影響しているものと思われる。
- 陸上交通では、鉄軌道は対令和元年度比で8割を超えるまでに回復しているが、バス・タクシーは8割に届いていない。特に観光需要の影響が大きい貸切バスや高速バスは、他のモードよりも低い水準に留まっている（令和元年度比：貸切バス約59%、高速バス約47%）。
- 旅客船事業（長距離フェリー・主要離島航路）では、自動車航送が令和元年度と同水準まで回復している。旅客輸送は令和元年度の水準には至っていないものの、令和3年度から大きく回復した。また、対外旅客定期航路（日韓航路）は水際対策の緩和により運航が再開されたが、対令和元年度比で10%に留まっている。

バス事業（一般乗合バス）

3.27億人

(R3年度比101.2%)
(R1年度比76.0%)

タクシー事業

1.08億人

(R3年度比108.3%)
(R1年度比72.3%)

鉄軌道事業（全体）

5.92億人

(R3年度比113.5%)
(R1年度比86.7%)

鉄軌道事業（JR九州）

2.97億人

(R3年度比110.8%)
(R1年度比87.8%)

長距離フェリー航路（旅客、自動車）

142.2万人、125.3万台

(R3年度比152.4%、112.7%)
(R1年度比90.5%、104.7%)

主要離島航路（旅客、自動車）

247.0万人、25.1万台

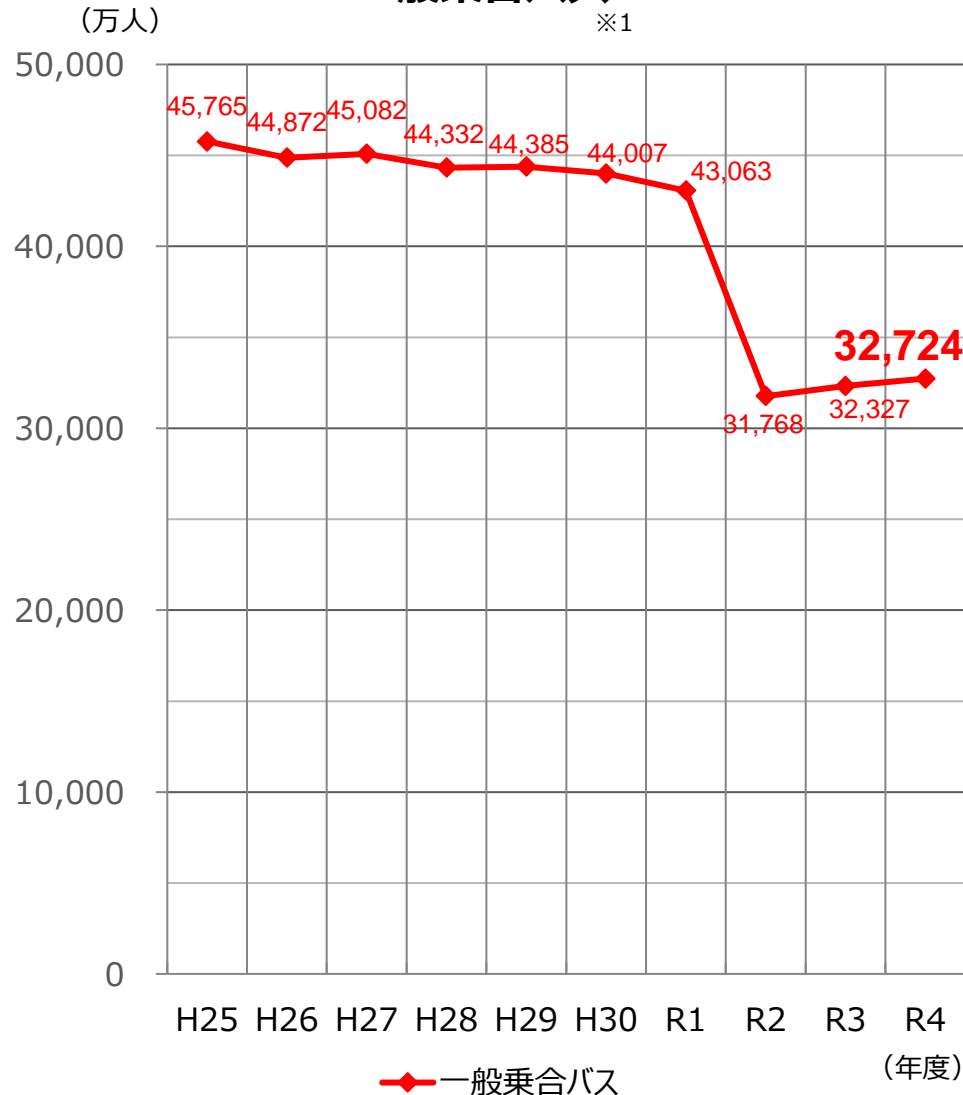
(R3年度比127.9%、106.7%)
(R1年度比75.7%、98.9%)

対外旅客定期航路（旅客のみ）

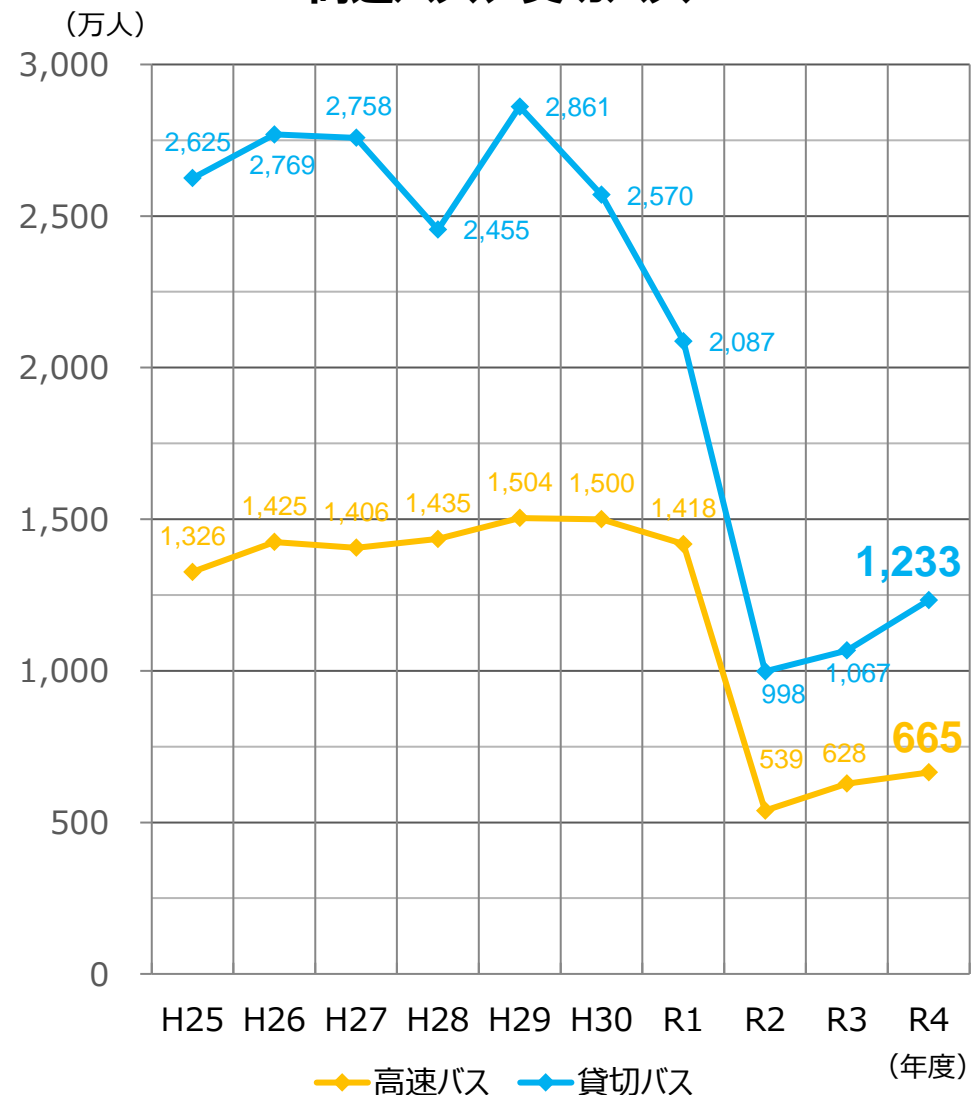
5.7万人

(R3年度運休)
(R1年度比10.0%)

一般乗合バス



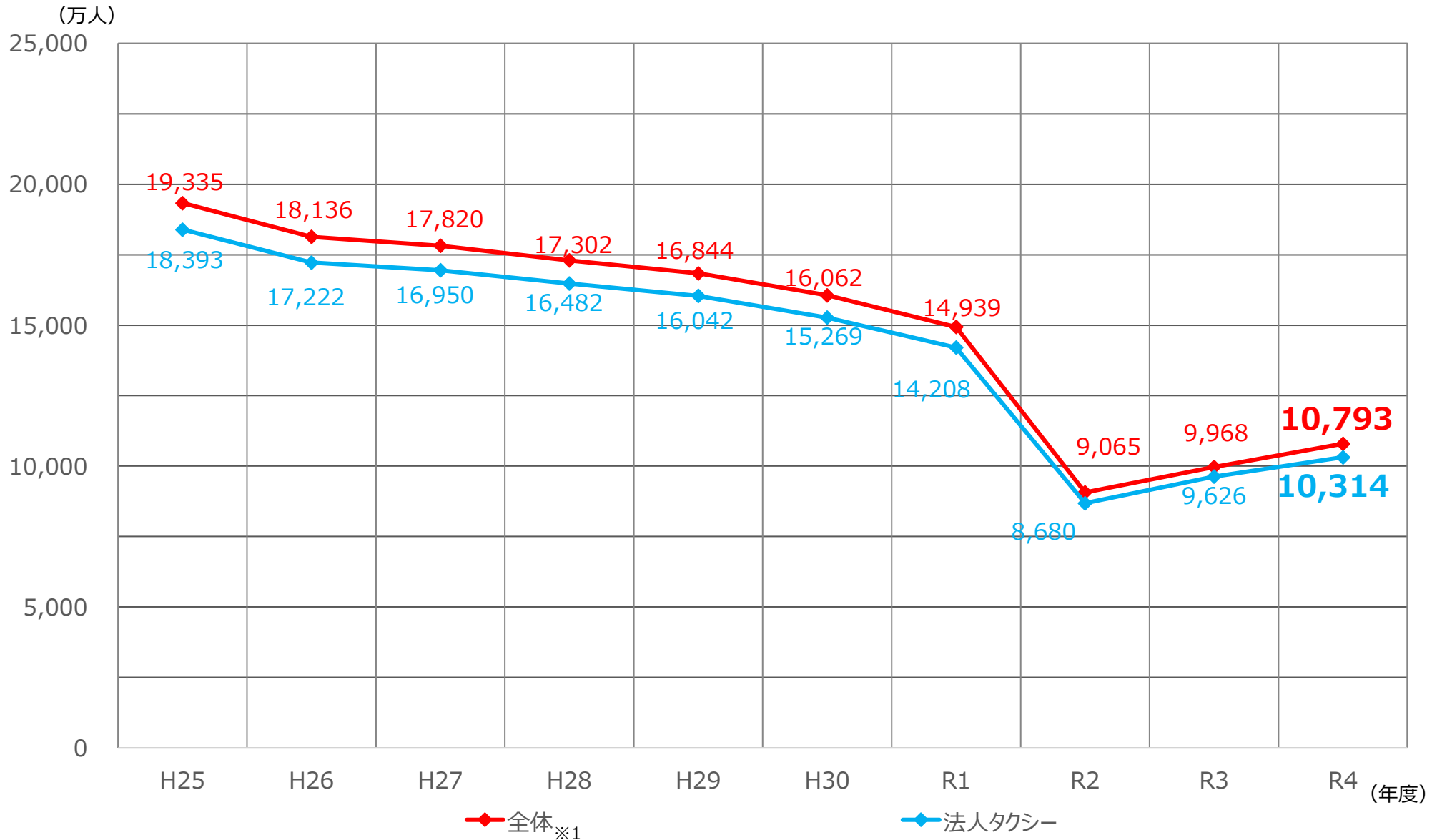
高速バス、貸切バス



※1 「一般乗合バス」とは、路線バスのうち、高速バス（高速道路を利用して、概ね50km以上走行するもの）を除いたもの。

※2 R4年度の輸送実績は一般乗合バス、高速バス、貸切バスともに速報値。

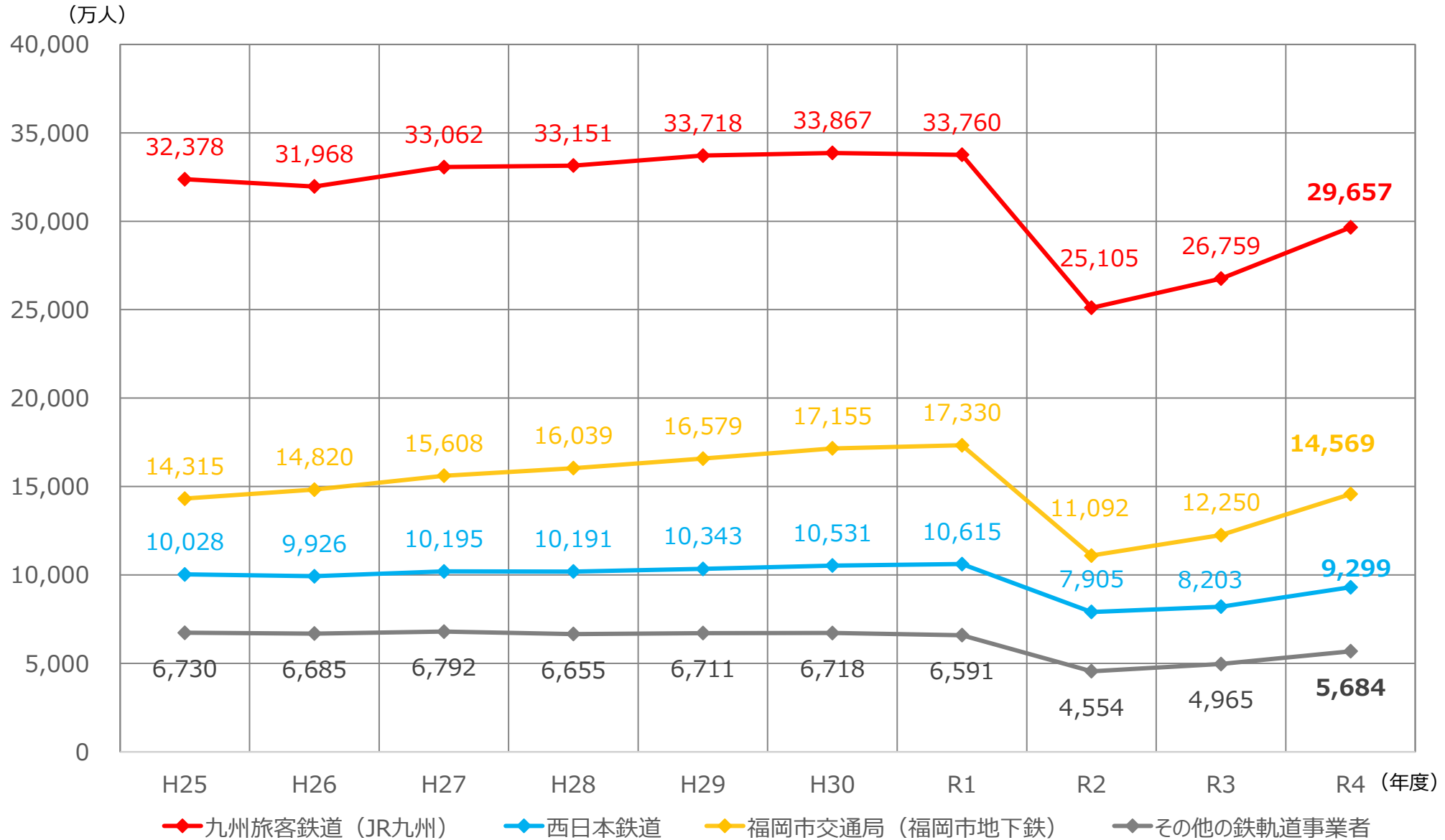
九州のタクシー事業の輸送実績



※1 「全体」には、法人タクシーの輸送実績のほか、いわゆる「個人タクシー」の輸送実績を含む。

※2 R4年度の輸送実績は速報値。

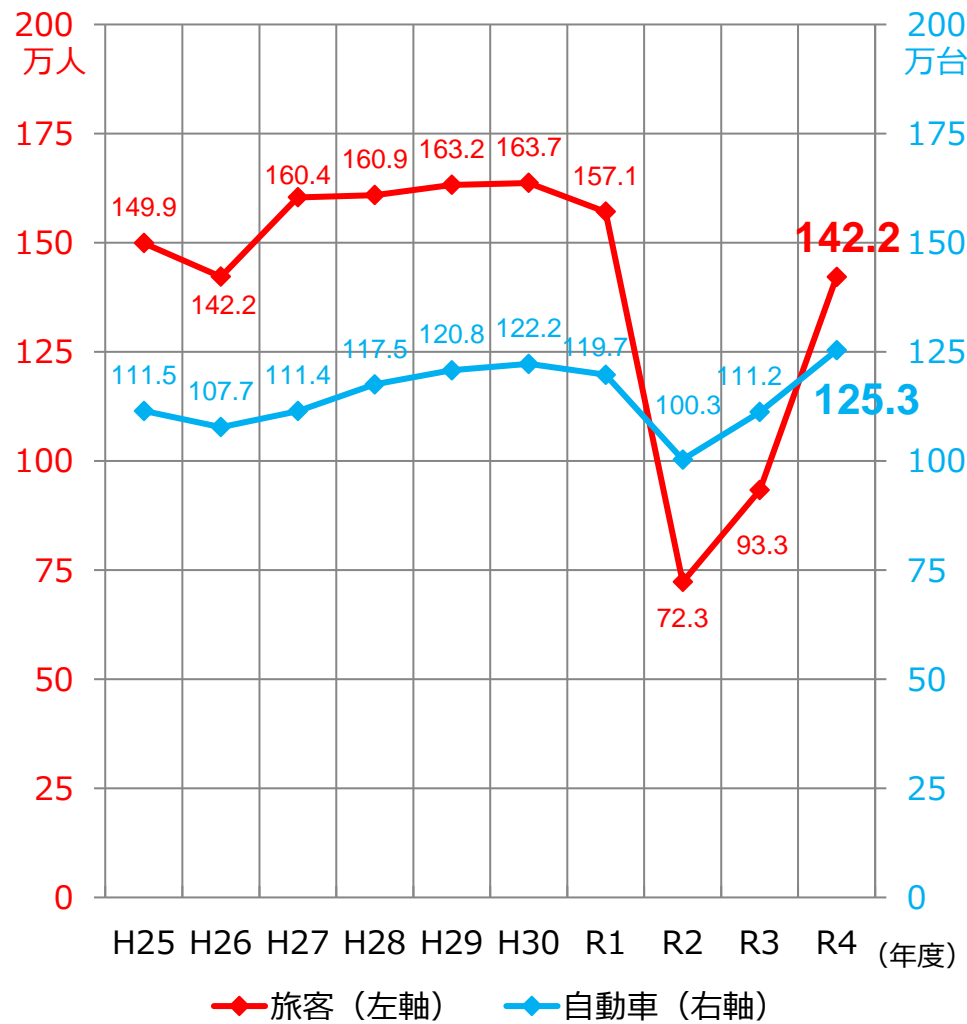
九州の鉄軌道事業の輸送実績



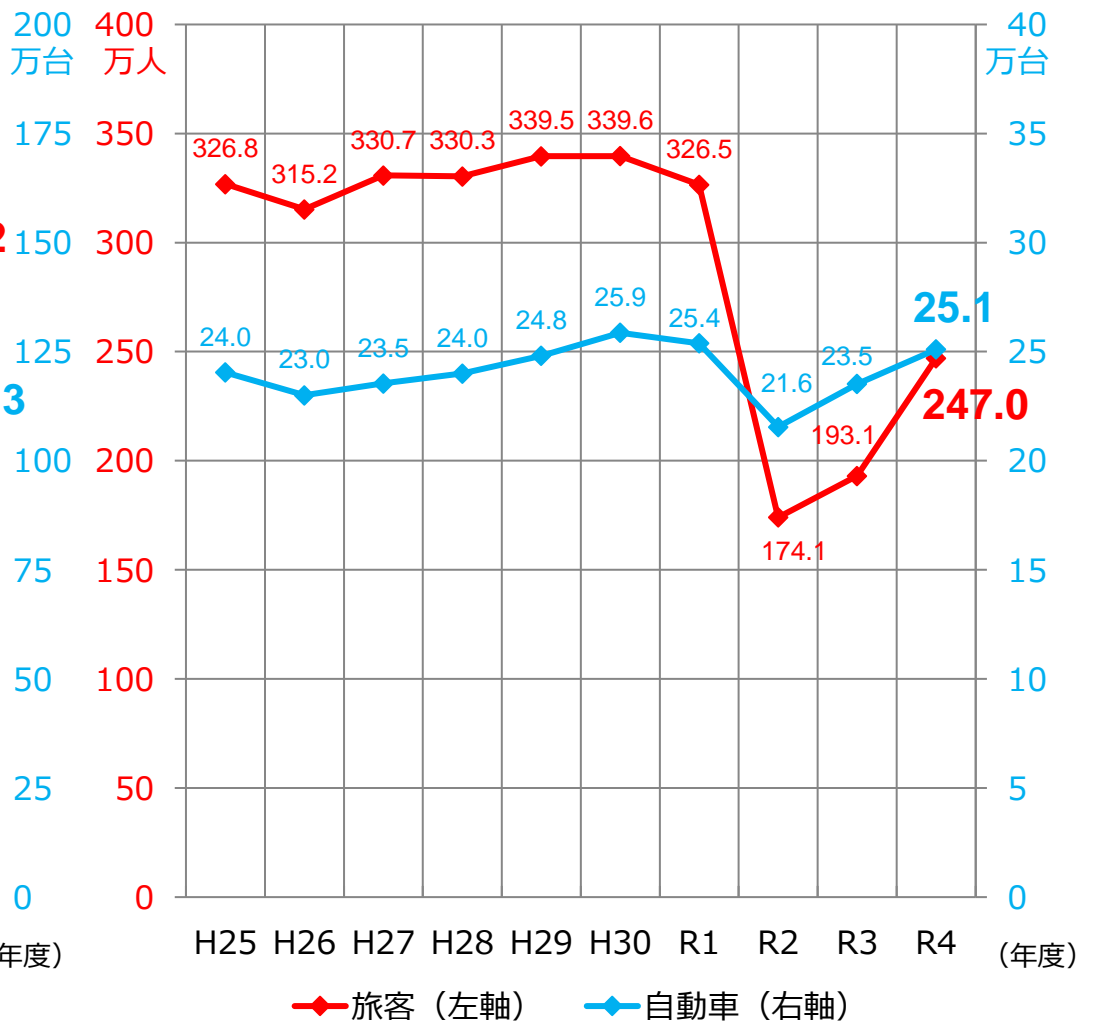
※1

※1 「その他の鉄軌道事業者」とは、次の13社の合計値。(筑豊電気鉄道、島原鉄道、熊本電気鉄道、甘木鉄道、南阿蘇鉄道、松浦鉄道、平成筑豊鉄道、くま川鉄道、肥薩おれんじ鉄道、北九州高速鉄道、長崎電気軌道、熊本市交通局、鹿児島市交通局)

長距離フェリー航路 ※1



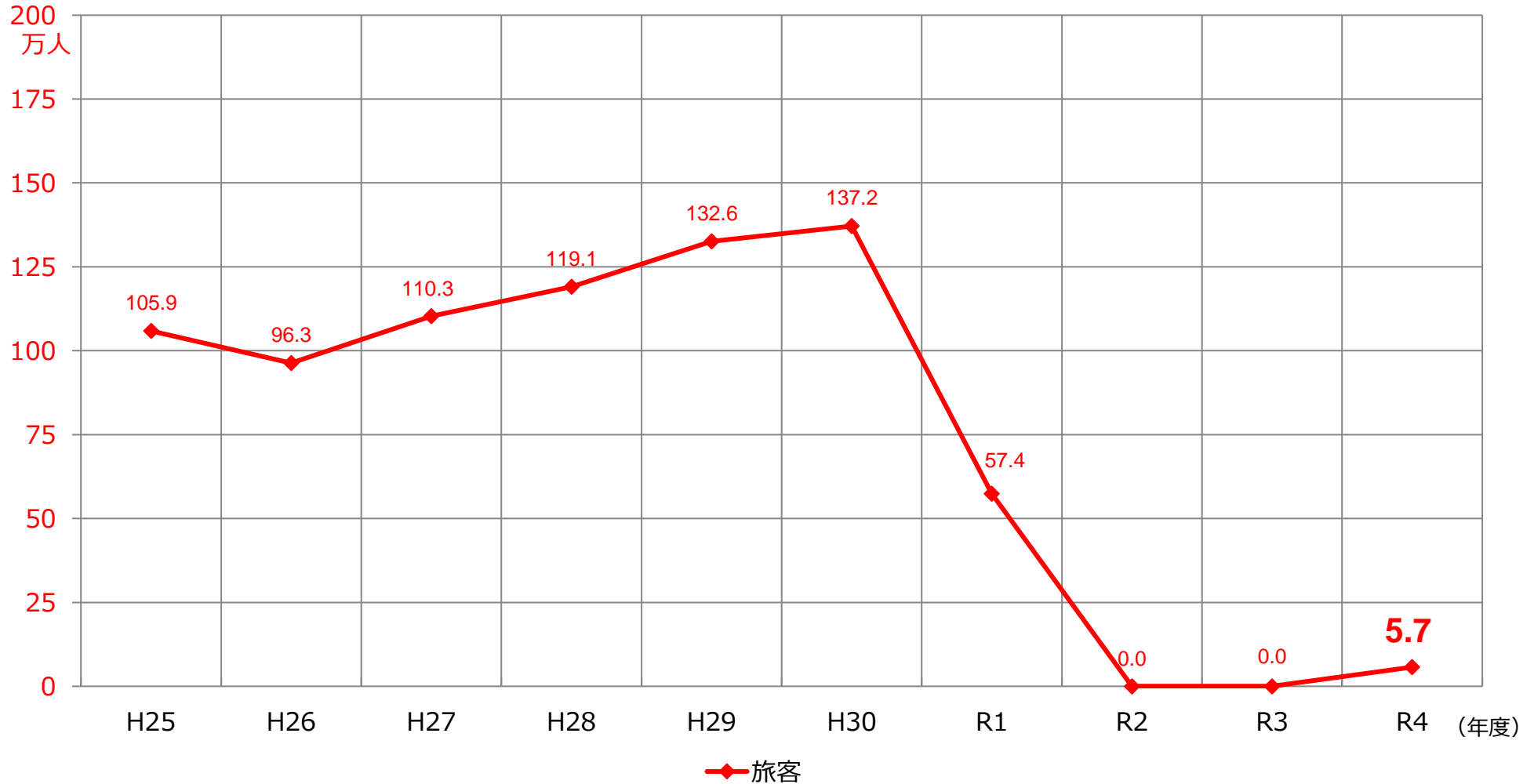
主要離島航路 ※2



※1 「長距離フェリー航路」とは、陸上輸送のバイパス的な旅客フェリーで片道の航路距離が300km以上の航路をいい、阪九フェリー、名門大洋フェリー、オーシャントランス、東京九州フェリー、フェリーさんふらわあ及び宮崎カーフェリーの6社9航路が該当。

※2 「主要離島航路」とは、壱岐、対馬、五島列島、甕島、種子島、屋久島、奄美群島又は沖縄本島と本土を結ぶ航路をいい、12社16航路が該当。

対外旅客定期航路 ※1



※1 対外旅客定期航路とは博多～釜山、対馬～釜山、下関～釜山航路をいう。

※2 令和2年度及び令和3年度は運航実績なし。